



今年度は認知症を予防するために「認知症についての知識」、「認知症の治療とケア」、「認知症の予防」について、順を追って掲載していきます。



今月は、家族など身近な人が認知症になった場合の対応を紹介します。

認知症が疑われるサインに気づいたら専門医（内科、神経内科、精神科）へ相談してください。

おたっしや本舗

今月の福祉

多久市地域包括支援センター
(多久市役所 福祉課内)

☎ 75-6033

多久市地域包括支援センター（おたっしや本舗多久）は高齢者のみなさんが、いつまでも元気で安心して暮らせるように、あらゆる面から応援する総合相談機関です。

認知症ストップ作戦

No.8

家族が認知症になったら



家族が認知症になったらどうすればいいの？

認知症は家族だけでケアするのは難しい病気です。専門家のアドバイスや地域のサポートなどを上手に活用することが、認知症の人へのよりよいケアにつながります。



「認知症サポーター養成講座」を受けて、認知症になっても住みなれた地域で生活できるよう、認知症の方やその家族を見守る認知症サポーターになりませんか？

ご希望の方は、福祉課へご相談ください。

● 家族だけで抱え込まないことが大切

家族が認知症になったとき、責任感の強い人ほど「自分が面倒を見なければ」と抱え込む傾向があります。

しかし、認知症は適切な介護を長期的に行う必要のある病気です。外部のサポートなどに頼ることなく、家族だけで担おうとすると、必要な情報が得られず適切な対処がとれなく



なったり、さらに介護する側の心身が疲れ切り、介護が続けられなくなるおそれがあります。

認知症の人への適切なケアと、介護者自身の健康のために、積極的に地域の医療や福祉サービスなどを活用し、外部との連携を図りましょう。

介護疲れのためには、虐待を自覚していない介護者も多く、虐待を受けている患者も「面倒をかけるに自分が悪い」と思ってしまう、問題が表面化しない悪循環に陥る危険があります。周囲のサポートを求めることは、介護者が虐待者になるまで追い詰められないためにも大切なことです。

患者の人間としての尊厳を無視し、怒鳴ったり罵ったりして精神的な苦痛を与えたり、日常生活に必要な世話をしないことなども虐待にあたります。

認知症の人の介護で問題になることがあるのは、介護者による虐待です。虐待というと、殴ったり、蹴ったりといった暴力行為がまず思い浮かびますが、虐待はそればかりではありません。

「介護疲れ」が「虐待」につながることも

